「生徒自身がつくりあげる学級会」

―主体的に課題と向き合い、他者と協働し、よりよい集団をめざす生徒の育成―

１　研究概要

（１）　主題設定の理由

（２）　めざす生徒像

（３）　研究の仮説

（４）　仮説に対する手だて

（５）　学習計画

（６）　抽出生徒

２　実践

（１）　学級会の準備

（２）　学級会を開く

（３）　総合学習を議題にした学級会を開く

（４）　１年のまとめとなる学級会を開く

３　仮説の検証と課題

（１）　仮説の検証

（２）　課題

第１１分科会
自治的諸活動と生活指導
B　中学校・高校

蟹江　陽平　（岡崎・男川小）

研究の概要報告

１　県内の自主的な研究活動のとりくみ状況

第 71 次教育研究活動に、県内より 13 本の貴重なリポートが寄せられ、「たくましく生きる子どもを育てよう」の統一テーマのもとに活発な研究討議がなされた。

今次教研では、「子どもの気持ちを大切にし、実態を正しく把握した上で、やる気を引き出し、自己存在感を味わわせるための支援のあり方」「リーダーの育成や集団の質を高めるための支援のあり方」「問題行動の解決や予防のための家庭・地域との連携、コミュニケーション能力の育成とその支援のあり方」という課題に対し、熱心に討論をすすめた。活発な討論になるように、課題ごとに質疑応答を行い、最後に全体討論を行った。

リポートの傾向としては、主体性・自己存在感・自己有用感・共感的な人間関係などのキーワードをもとに、認め合い支え合ったり、高め合ったりすることで、自他ともに理解を深めようとする実践報告が多くみられた。また、学級活動や生徒会活動、学校行事で仲間とかかわる活動を通して、集団の質の向上をめざした実践や、地域との交流活動を通して、地域社会に関心をもち、地域に貢献しようとする心を育てる実践なども報告された。

２　今次県教研で論じられた主要な課題

(1)　子どもの気持ちを大切にし、実態を正しく把握した上で、やる気を引き出し、自己存在感を味わわせるための支援のあり方

集団で活動する中で、相手に共感し、肯定する態度を身につけ、互いの意見を交流し合うことで、さまざまな場面で自分に自信をもって行動し、自己存在感を味わわせることができたという実践が報告された。また、「計画・実行・評価・改善」をくり返し行う「ＰＤＣＡサイクル」を活動の中へ取り入れることで、子どものやる気を引き出し、主体的に行動できるようになったという実践も報告された。

(2)　リーダーの育成や集団の質を高めるための支援のあり方

自分の役割を認識し、目標を明確化して学校行事へとりくむことで、集団への所属感や自己肯定感を高めることができたという実践が報告された。また、自分たちの課題を仲間と共有するために、学級会を開き、学級の目標を達成するために話し合うことで、主体的に行動することができるようになったという実践が報告された。

(3)　問題行動の解決や予防のための家庭や地域との連携、コミュニケーション能力の育成とその支援のあり方

幼稚園訪問や異学年交流を行うことで、コミュニケーション能力が育った実践や、全校で防災学習にとりくみ、地域防災への意識が高まった実践が報告された。また、不登校生徒の支援のために、「校内フリースクール」を立ち上げ、不登校支援のための指導のあり方を検証した実践もあった。

報告書のできるまで

第 71 次教育研究愛知県集会「自治的諸活動と生活指導」分科会は、10 月 16 日愛知県産業労働センターで開かれた。第 70 次教研までの成果と課題にたち、「たくましく生きる子どもを育てよう」をテーマに、次の柱立てにより討議された。

１　子どもの気持ちを大切にし、実態を正しく把握した上で、やる気を引き出し、自己存在感を味わわせるための支援のあり方。

２　リーダーの育成や集団の質を高めるための支援のあり方。

３　問題行動の解決や予防のための家庭や地域との連携、コミュニケーション能力の育成とその支援のあり方。

数多くの具体的実践をもとに、成果を確認し、課題を掘り起こしていった。この報告書は、その成果と課題を中心に作成したものである。

助　言　者	杉本　一正（愛知県一宮児童相談ｾﾝﾀｰ）	松浦　要司（名古屋・南天白中）
教育課程	末次　志麻（みよし・黒笹小）	志知　佑太（一宮・末広小）
研究委員	西尾　盛二（名古屋・東陵中）	小檜山　亮（海部・暁中）
	太田　早織（幸田・北部中）	齋藤　健司（豊田・藤岡南中）
	神谷　絢香（岡崎・六ツ美南部小）	鈴木　潤也（豊田・若園中）
	羽根田知樹（名古屋・平針南小）	浅野　和也（西春・清州中）

報告書の要点

生徒の実態
・言われたことや決まったことをこなすだけの受け身の姿勢
・特定の生徒のみですすむ学級活動

A：相手意識を高めたい

そこで…

B：自信をつけて意見を言えるようにしたい

「生徒自身がつくり上げる学級会」を開く

学級会の主な議題
①「クラスがどう変わってきたか、これからどう変われるか」
②「今、自分がとりくんでいる防災対策をふまえ、これからどんな対策ができるか」
③「お世話になった方に思いを伝えるために何ができるか」

一人ひとり「個人シート」の作成
→全員が意見をもって学級会に参加できた

安心して意見が言えるような支援
→下線や朱書きにより発言が増えた

「議題カード」を用いた生徒による議題の提案
→議題を自分事として考え、行動する姿みられた

「司会団」による会の司会・進行
→折り合いをつけるなど協働的にとりくむ姿がみられた

「学級会のすすめ方マニュアル」による学級会の基盤づくり
→円滑にすすみ話し合いに多くの時間をあてられた

教員による声かけや支援
→会のすすめ方や話し合いのポイントなどについて確認した

主体的に行動する姿や学級会で決定したことに学級全体で協力してとりくむ姿がみられた

A：周りや相手を大切にする気持ちが育った。

B：Bの意見で学級が成長。意見を伝える大切さに気付いた。

今後の課題
話し合いにより多くの時間を割くために、タブレット端末による意見の共有をとり入れていきたい。

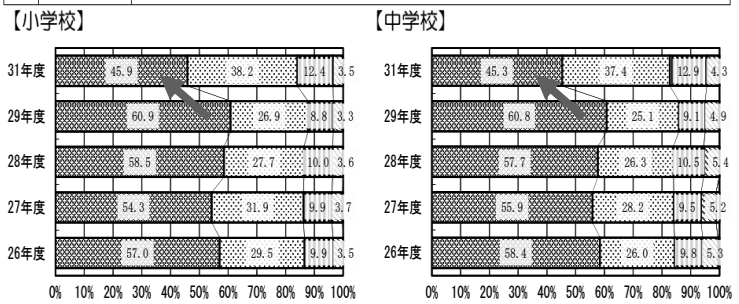
１　研究概要

（１）主題設定の理由

本学級の生徒は、これまでの学校生活や行事などを通して、まとまりのある学級集団になりつつある。学級のリーダーを中心に声をかけながら、クラスの仲間と協力し、成長をしてきた。係活動に対する責任感やルールに対する規範意識も高く、集団で行動する際に和を乱してしまう生徒は少ない。

資料１：「全国学力・学習状況調査報告書」の結果

	質問番号	質問事項
小	１１	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み，うれしかったことがありますか
中	１１	



平成 31 年度(令和元年度)　全国学力・学習状況調査　報告書　【質問紙調査】
https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/report/data/19qn.pdf

しかし、それは主体的な活動というよりも、言われたことや決まったことをこなそうという受け身の姿勢といえる。学級全員での話し合いではなく、特定の生徒のリーダーシップによりまとまりが生まれているのである。「みんなが自分から意見を言ってほしい」「積極的に参加してほしい」というリーダーの思いが学級会のたびに伝わってくる。

「2019 年度全国学力・学習状況調査報告書」によると、「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」という質問に対して、「あてはまる」と回答している生徒の割合は、2017 年度(平成 29 年度)から 2019 年度(平成 31 年度)で約 15 ポイント減少している（資料１）。また、2018 年には、ネットいじめの件数が過去最多を記録している。個人の権利が大切にされるようになったり、スマートフォンやＳＮＳの普及がすすんだりする中で、深く人とつきあうことや相互に助け合うことが減り、人間関係の希薄化を感じる。これらの現状をふまえると、学校教育の場で、よりよい人間関係を築き、社会性を身につけていくことは大きな意義をもつ。子どもたちが、集団の中で多様な他者とかかわり、仲間から認められ自信を高めることは、現代の若者にとって必要なことと言っていいだろう。

以上のような本学級の生徒、世の中の実態から、定期的に学級会を開き、よりよい人間関係を築いていく実践を行う。学級会では、教員が議題を与えるのではなく、生徒自らが議題を提案する。また、生徒一人ひとりが自分の考えをもって学級会にのぞめるようにし、司会・進行も生徒自身が行う。そうした学級会活動を通して、議題を自分事としてとらえ、仲間とともにひとつの方向にむかってすすむことができる学級集団にしていきたい。ときには、自分の主張を通そうとしたり、衝突したりすることもあるだろう。しかし、そうした状況の中で折り合いをつけながら合意形成をはかっていくことが、社会性を身につけることにつながっていく。今の子どもたちが社会の中で働くときは、与えられた仕事をひたむきにとりくむだけではなく、自ら現状と課題を把握したうえで、物事に多様な他者ととりくむ主体性が求められるだろう。そんな思いをふまえて、先のようなテーマを設定した。

（２）めざす生徒像

・学級の課題を自分事として考えられる生徒
・自分や他者と折り合いをつけて話し合いができる生徒

（３）研究の仮説

仮説１　学級会の前に、個人の意見を考える場や議題を提案できる場があれば、生徒は学級の課題を自分事として考え、主体的に学級会活動に参加することができるだろう。

仮説２	生徒自身が学級会の司会・進行をすれば、折り合いをつけることや合意形成の難しさを経験でき、相手意識も高まり、協働的に課題解決にむかうことができるだろう。

（４）仮説に対する手だて

仮説１に対する手だて

① 学級会「個人シート」を作成し、学級会の前に自分の思いや考えを記入することで、意見をもって学級会に参加できるようにする。

② 学級会の前に、司会団とともに「個人シート」に目を通し、朱書きや下線を入れたり、クラスメイトに声をかけたりして、生徒一人ひとりが自信をもって学級会にのぞめるようにする。

③ 「議題カード」を生徒一人ひとりに配付したり、教室に設置したりして、生徒が議題にしたいことを提案できるようにする。

仮説２に対する手だて

④ 司会、副司会、黒板書記、ノート書記で構成された「司会団」を組み、生徒自身で学級会の司会・進行を行う。

⑤ 「学級会すすめ方マニュアル」を作成し、学級会のすすめ方の基盤をつくる。それをもとに、生徒自身で司会・進行ができるようにする。

⑥ 意見がまとまらないときや話し合いの方向性がずれそうな場合は、司会団自ら相談の時間を設けたり、教員と相談したりする。また、その相談の時間に話し合いのポイントや方向性を司会団と教員で一緒に考える。

（５）学習計画

学習段階	学習内容
準備	・「個人シート」「議題カード」「司会団」「学級会のすすめ方マニュアル」などの説明をする。 ・司会団を結成する（はじめの司会団は、やってみたいという思いのある生徒を中心に結成する）。
①学級会を開く（基盤づくり）	・とりくみやすい議題で学級会を開く。 （月の目標、行事の振り返りなど）
学級会を開く（基盤づくり）	・とりくみやすい議題で学級会を開く。 （月の目標、行事の振り返りなど）
②総合学習を議題にした学級会を開く	・「総合的な学習の時間」でとりくんでいる活動を議題とした学級会を開く。
学級会を開く（反省をいかす）	・とりくみやすい議題で学級会を開く。 （月の目標、行事の振り返りなど）
③１年のまとめとなる学級会を開く	・１年のまとめとなる学級会を開く。
随時	・議題カードをもとに学級会を開く。
※本研究では、主に①、②、③の実践について検証をする。	

（６）抽出生徒

本研究では、ＡとＢの変容を追っていくことにする。主にこの２人の変容を追い、研究の手だての有効性を検証していきたい。

A はじめの司会団の司会を務める。どの授業でも積極的に参加している。分からないことがあると、納得のいくまで考えることができる。先を見る力があるため、時間調整がうまく、言いたいこともはっきりと言える。ただ、柔軟にものごとを考えることを苦手としているように感じる。他者の考えを取り入れながら、学級会で話しをまとめたり、相手意識を高めたりできるよう指導していきたい。
B ひかえめな生徒。毎日書く「生活の記録」では、クラスメイトのいいところやその日に学んだことをていねいに書いている。休み時間には、すすんで配付物を配ったり、黒板を消したりするなど、学級のために行動できる。しかし、すすんで自分の思いや考えを言うことは苦手としている。学級会で自分の思いを伝え、仲間から認められる経験を通して、自信をつけていけるよう指導していきたい。

２　実践

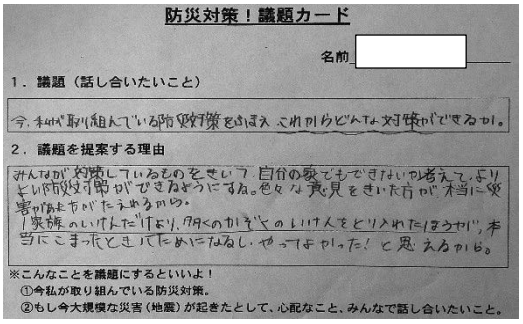
（１）学級会の準備

２学期半ばの合唱コンクールを終えたころ、よりよい集団をめざすべく、学級会を定期的に行うことを生徒に伝えた。これまでも学級会を行ってきたが、教員の準備不足や指導不足で生徒の成長の機会にできていなかった。そこで、前述のような計画を生徒に伝えた。

まず、学級全体に「議題カード」と「個人シート」について伝えた。「議題カード」は、配付を中心とし、設置もして生徒が話し合いたいことを提案できるようにする（資料２）。ただ単に、話し合いたいことにするのではなく、学級の成長につながる議題を募ることとする。その議題カードをもとに、司会団で学級会の議題を決定する。

「個人シート」は、学級会の前に、一人ひとりに配付をする（資料３）。議題、提案理由、提案者、話し合いのめあて、司会団、話し合うことは、学級全員で同じことを記入する。自分のめあて、自分の考え、役割・がんばりたいことは、事前に各自で記入する。ここまで記入ができたら、一度司会団が全員分集めて、個人シートを一読する。その目的は、学級会の方向性を見通すため、朱書きや下線を入れ発言しやすいように支援するためである。振り返り、感想は、学級会後に記入

資料２：議題カード


防災対策！議題カード

名前

1．議題（話し合いたいこと）

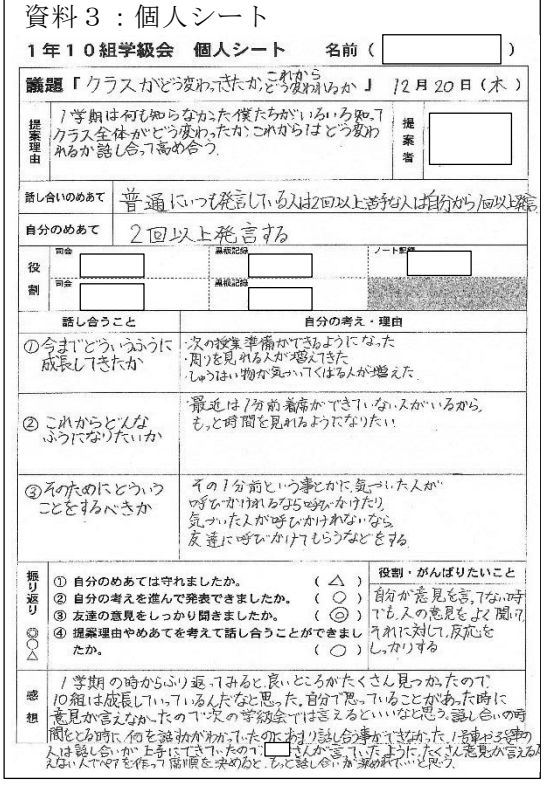
今、私が取り組んでいる防災対策をふまえ これからどんな対策ができるか。

2．議題を提案する理由

みんなが対策しているものをきいて 自分の家でもできないか考えて、よりよい防災対策ができるようにするね。色々な意見をきいた方が本当に災害があったときにたえられるから。
1学期のいいけんだけより、明くのかぞくのいいけんをとりいれたほうが、本当にこまったときにたためになるし、やってよかった！と思えるから。

※こんなことを議題にするといいよ！
①今私が取り組んでいる防災対策。
②もし今大規模な災害（地震）が起きたとして、心配なこと、みんなで話し合いたいこと。

資料３：個人シート


1年10組学級会　個人シート　名前（　　）

議題「クラスがどう変わってきたか、これからどう変われるか」 12月20日（木）

提案理由：1学期は何も知らなかった僕たちがいろいろ知ってクラス全体がどう変わったか、これからはどう変われるか話し合って高め合う。　提案者：

話し合いのめあて：普通にいつも発言している人は2回以上、発言しない人は自分から1回以上発言

自分のめあて：2回以上発言する

役割：司会　黒板記録　ノート記録　司会　黒板記録

話し合うこと	自分の考え・理由
①今までどういうふうに成長してきたか	・次の授業準備ができるようになった ・周りを見れる人が増えてきた ・しゅうはい物を気がつくようになる人が増えた
②これからどんなふうになりたいか	・最近は1分前着席ができていない人がいるから、もっと時間を見れるようになりたい
③そのためにどういうことをするべきか	その1分前という事とかに気づいた人が呼びかけれるなら呼びかけたり、気づいた人が呼びかけれないなら友達に呼びかけてもらうなどをする。

振り返り
① 自分のめあては守れましたか。（△）
② 自分の考えを進んで発表できましたか。（○）
③ 友達の意見をしっかり聞きましたか。（◎）
④ 提案理由やめあてを考えて話し合うことができましたか。（○）

役割・がんばりたいこと：自分が意見を言えない時でも人の意見をよく聞いて、それに対して、反応をしっかりする

感想：1学期の時からふり返ってみると、良いところがたくさん見つかったので10組は成長していっているんだなと思った。自分で思っていることがあった時に意見が言えなかったので次の学級会では言えるといいなと思う。話し合いの時間ととる時に、何を話すかわかっていたのにあまり話し合う事ができなかった。1学期より発言の人は話し合いが上手にできていたので□さんが言っていたように、たくさん意見が言えるようにしたい。言えない人でペアを作って簡単に決めると、もっと話し合いが進めれていいと思う。

する。

次に、司会団の結成。学級会を始めるにあたり、学級会の基盤づくりが大切であると考え、最初の司会団は「やってみたい」という思いのある生徒を中心に結成した。司会は、時間調整ができ、話の流れを理解できる生徒（A）。副司会は、司会との相性も考え、物事を柔軟に考えることができ、雰囲気を変えることができる生徒。ノート書記は、話し合いの流れを構造的にまとめることができる几帳面な生徒。黒板書記は、クラスメイトの発言の要点をとらえて、すばやく黒板に記入できる生徒。以上の５人で司会団は結成された。また、座席は、司会団５人を教室前方にし、司会を副司会とノート書記で挟む形にした。これは、司会と副司会が相談をしやすいこと、司会がノートをすぐに確認できることをねらいとしている。

最後に、司会団とともに、「学級会のすすめ方マニュアル」をもとにしながら司会・進行の流れを確認する。このねらいは、学級会のすすめ方をマニュアル化することで、形式的に進行できるところを時間短縮し、話し合いたい部分に多くの時間を割けるようにすること、また、話し合いの決定までのむかわせ方を身につけることである。加えて、司会団が困ったときの「相談タイム」のとり方や多数決のとり方についても説明をした。

以上の準備をして、学級会にのぞんだ。

（２）学級会を開く

議題カードを集め、司会団が議題を選んだ。その結果、１回目の学級会の議題は「クラスがどう変わってきたか、これからどう変われるか」となった。この議題を選んだ理由は、クラスの成長したところならみんなが発言しやすいこと、２学期のまとめになる議題、３学期につながる議題になると考えたからである。話し合うことは、「①今までどういうふうに成長してきたか」、「②これからどんなふうになりたいか」、「③そのためにどういうことをするべきか」となった。

今回の学級会のＡの自分のめあては「話し合いをスムーズにすすめる」であった(資料４)。まだ相手意識は感じられない。

そして、学級会が始まると、「①今までどういうふうに成長してきたか」というところで、普段あまり発言ができない生徒も発言をすることができた。司会団の議題の選定、個人シートの事前記入が有効であったことを感じた。Ｂも１回自分の意見を言うことができた。しかし、司会団がここで時間を使いすぎたがゆえに、②③の話し合いたい部分で多くの時間を割くことができなかった。意見を出すところは短く、考えをすり合わせていくところは長くできるように教員が支援をしていく必要がある。その②のところで、「メリハリをつけて行動」と「言われる前に行動」で対立する場面があった。その際に、積極的に意見を言える生徒のみの水掛け論のような時間になってしまい、Ａが戸惑った。そこで、司会団が相談タイムをとり、教員も一緒に打ち合わせをした（資料５）。「『○○さんの意見に賛成です。』という発言が増えると、自ずと学級のすすみたい方向、話し合いの決定にむかえるよ」とアドバイスをした。それを司会団が学級全体に伝えると、多くの生徒から「言われる前に行動の方がはっきりしていてわかりやすいので

資料４：Ａの「自分のめあて」

自分のめあて	話し合いをスムーズに進める。

初めての学級会ということもあり、相手意識はまだ感じられない。

資料５：教員と一緒に相談をする司会団

資料６：個人シートの感想

感想	1学期の時からふり返ってみると、良いところがたくさん見つかったので、10組は成長していっているんだなと思った。自分で思っていることがあった時に意見が言えなかったので次の学級会では言えるといいなと思う。話し合いの時間をとる時に何を話すかわかっていたのにあまり話し合うことができなかった。1号車や3号車の人は話し合いが上手にできていたので、[redacted]さんが言っていたように、たくさん意見が言えるし言えない人でペアを作って席順を決めると、もっと話し合いが深められていいと思う。

席の配置を意図的に決めることによって、話し合いが深まると考えられており、自分事になっている。

資料７：Ａ（上）、Ｂ（下）の個人シートの感想

たくさんの意見がでたのはよかったけど、意見を一つに決めるときに、少し時間を使ってしまった感じがしたので、次の学級会では、たくさんの意見をしっかりとーつにまとめられるようにしたいです。黒板の２人は、しっかりかいていたけど、早すぎかな？といっところもあったので、２人の意見も参考にして、もっといい学級会にしたいです。反対意見だけでなく賛成意見もたくさんでていてよかったです。

どちらかというけっこうむずかしい意見とかが出て、ツルついていけない部分もあったけど結果的によくなったのでよかった。
司会の子たちは初めてなのにスムーズに学級会ができていてすごいと思った。

賛成です。」「言われる前に行動に賛成です。理由は、今10組の弱いところだからです。」「言われる前に行動に賛成です。」と意見が出て、②の話し合いを着地させることができた。さらに、席によって話し合いが活発になるところとそうでないところがあった。「座席の配置も考えると、より学級会が活発になるのではないか」という生徒の意見を次回にいかしたい（資料６）。

Ａの感想からは、反省もしつつ、次回にむけて前向きな気持ちになっているとわかる。Ｂの感想からは、まだ主体的な姿勢はみられない（資料７）。

（３）総合学習でのとりくみを議題にした学級会を開く

本学級では、「総合的な学習の時間」に防災についてとりくんでいる。これまで各家庭での防災対策を調べたり、自分自身の災害に対する意識について考えたりしてきた。また、近い将来、愛知県や岡崎市にも大きな被害をもたらすであろう南海トラフ巨大地震と過去に起きた大きな地震について知識を得てきた。今後は、どのように学習をすすめていくか考えていくところだったので、議題カードで話し合えることがないか募った。すると「みんながどんな対策をしているか知って、自分たちの対策にいかしたい」という意見が出たので、学級会を行うことにした。

議題は「今、自分がとりくんでいる防災対策をふまえ、これからどんな対策ができるか」となった。この議題を選んだ理由は、各家庭の対策を聞くことで、多様な考えをもてると思ったから、また、それらをふまえ学級会で話し合うことで、よりよい防災活動へつなげていけると思ったからである。話し合うことは、「①実際に災害が起きたときに困りそうなこと」、「②今やっている防災対策、これからできそうな防災対策」、「③今後クラスとしてとりくむことを決める」となった。事前に、個人シートを見た結果、学級で「学校避難マップ」「学校危険箇所マップ」のようなものを作成するという方向で話し合いがすすみそうだと見通しを立てた。Ａの自分のめあては「みんなの反応をよく見てすすめる」であった。学級の理解度や雰囲気を感じながら進行しようとい

資料８：Ａの「自分のめあて」

自分のめあて	みんなの反応をよく見て進める

クラスメイトの様子を見ながら進行しようというめあて。相手意識の芽生えを感じる。

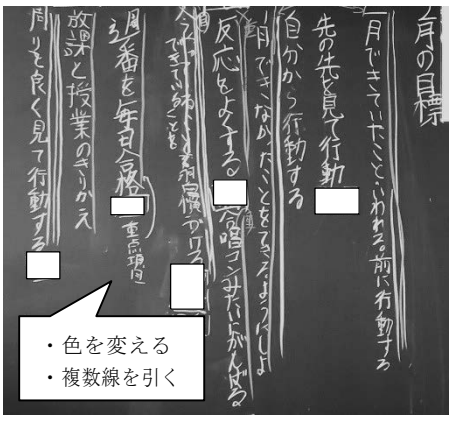
う意識がうかがえ始めた(資料８)。

学級会が始まると、先回の学級会以上に積極的に自分の考えを発表する姿がみられた。司会団が個人シートに下線をていねいに書いたことが効果的であった（資料９)。最終的には、全員発言をした。話し合いも予想通り、ハザードマップや避難経路がわかるマップを作る方向ですすんでいたが、最後に「防災グッズを作る」という意見が出て、２つの着地点で学級会が終わるという形になった。２つの着地点で終わることが悪いこととは思わないが、全員がひとつの方向で話し合えていなかったと考えられる。そして、その原因となったひとつは板書の仕方である。たくさんの意見が出るようになったがゆえに、クラスメイトの意見を書くことに精一杯で、構造的な板書ができていなかった。例えば、似たような意見に色チョークで線を引いたり、意見の数だけ複数線を引けば、視覚的にどんな流れで話し合いがすすんでいるか理解することができる。そして、それは次回の学級会ですぐにいかすことができた（資料 10)。生徒が学級会を開くたびに成長していることがうかがえる。また、今回は『家庭での防災対策』から『クラスでこれからとりくむ防災対策』の方向で話をすすめたが、提案者は『クラスメイトの防災対策を聞いて、各家庭に取り入れる』ところを着地点としたかったようだ。総合学習で学習していたことを特別活動に取り入れたので、決めたことを実践する方向にすすめてしまった。しかし、提案者の感想にあるように、学級で決めたことを各家庭で実践すればよいという柔軟な考えができている（資料 11 の下線部)。提案者は自分の思った通りにすすみたいという考えの生徒なため、学級会を経験していく中で、自分の考えに折り合いをつけていくことも学んでいることがうかがえる。

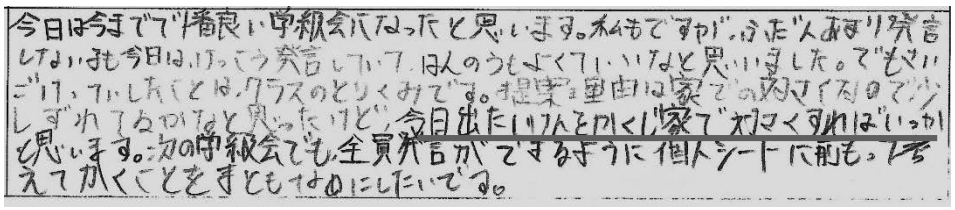
Ａの感想からは、前向きな感想がみられ、よりよくしていくための自分の考えも書いてい

資料９：個人シートに下線を入れる司会団

資料 10：線を引いて構造的にまとめた板書

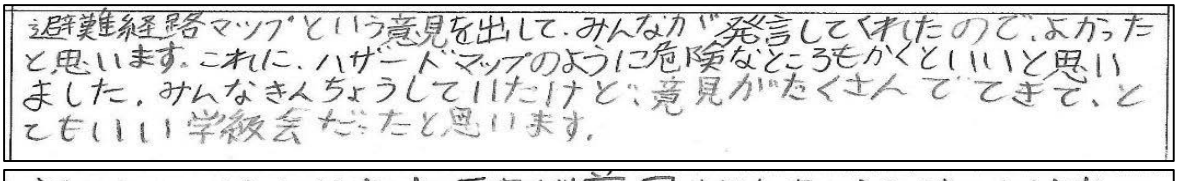


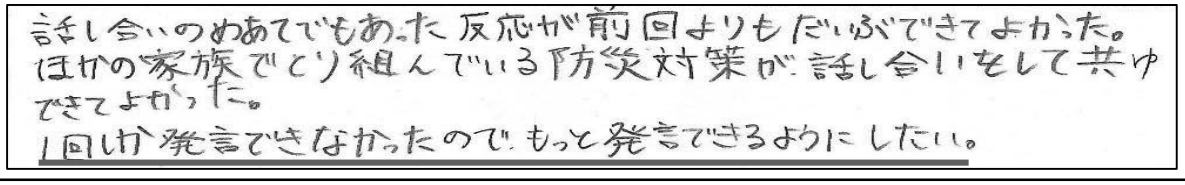
資料 11：提案者の感想


今日は今までで一番良い学級会になったと思います。私もですが、ふだんあまり発言しないあの人も今日は、けっこう発言していて、はんのうもよくていいなと思いました。でもさいごにいっていたことは、クラスのとりくみです。提案理由は家での防災なので少しずれてるかなと思ったけど、今日出たいいことをかくし家でカマくすればいいかと思います。次の学級会でも全員発言ができるように個人シートに前もってきえてかくことをすともなのにしたいです。

提案者の思った通りにはすすまなかったが、各家庭で実践すればよいと柔軟に考えている。

資料 12：Ａ（上)、Ｂ（下）の個人シートの感想


避難経路マップという意見を出して、みんなが発言してくれたので、よかったと思います。これに、ハザードマップのように危険なところもかくといいと思いました。みんなきんちょうしていたけど、意見がたくさんでてきて、とてもいい学級会だったと思います。


話し合いのめあてでもあった反応が前回よりもだいぶできてよかった。ほかの家族でとり組んでいる防災対策が話し合いをして共ゆできてよかった。
1回しか発言できなかったので、もっと発言できるようにしたい。

る。Ｂの感想からは、次回の学級会にむけて積極的に発言をしたいという気持ちの表れがみえる（資料 12）。

（４）１年のまとめとなる学級会を開く

学級会の基盤ができてきたため、司会団を変更した。その司会団から次のような議題で話し合いがしたいと提案があった。議題は、「お世話になった方に思いを伝えるために何ができるか」である。Ａは初めて一般で参加、Ｂも一般で参加した。Ａの自分のめあては、「もらう人のことを考えた発言をする」であり、感謝を伝える方のことを考えためあてであり、これまでの学級会を通してＡが変容してきたこととわかる（資料 13）。学級会では、「どんなことをするのか」で議論になった（資料 14）。最後の授業でお礼、歌を歌う、手紙を渡すなどの案が出た。この学級会を開いたのは３月７日だったため、時間がないから最後の授業でお礼を言うに話がまとまりつつあった。多数決をとっても９割ほどが前述の意見に賛成で挙手をした。しかし、Ｂともう１人の生徒のみ手を挙げなかった。ここで司会がこの２人に多数の意見でいいか確認をしたので、教員も重ねてたずねた（少数派意見の確認）。すると「時間がないと言っていたら何もできない」という自分たちの都合で話をすすめてはだめだと言わんばかりの意見を言った。この意見から、大切なことに気付いたのか、感謝の気持ちをみんなで書いて手紙を渡そうという意見が多数になった。しかし、一部生徒は「多数決で決まったのだから変えてはだめじゃないか」と言った。まったくその通りだが、ここで司会団のひとりが「じゃあ意見言ってまた逆転すれば文句はないんじゃない？」と言った。実際時間がないことは確かだったので、教員が紙を用意しようかと提案をして、手紙案に決定した。Ｂの意見が学級全体を動かす意見となった。ルールからは脱線したが、本当に大切なことに気付く、成長を感じる学級会となった。また、Ａの感想をみると、「先生が紙を用意するのは、先生も感謝を伝える１人だから違うのではないか」と書いてあった。この感想から、Ａが自分のめあてもしっかり達成できていると感じた（資料 15）。

資料 13：Ａの「自分のめあて」

もらう人のことを考えた発言をする

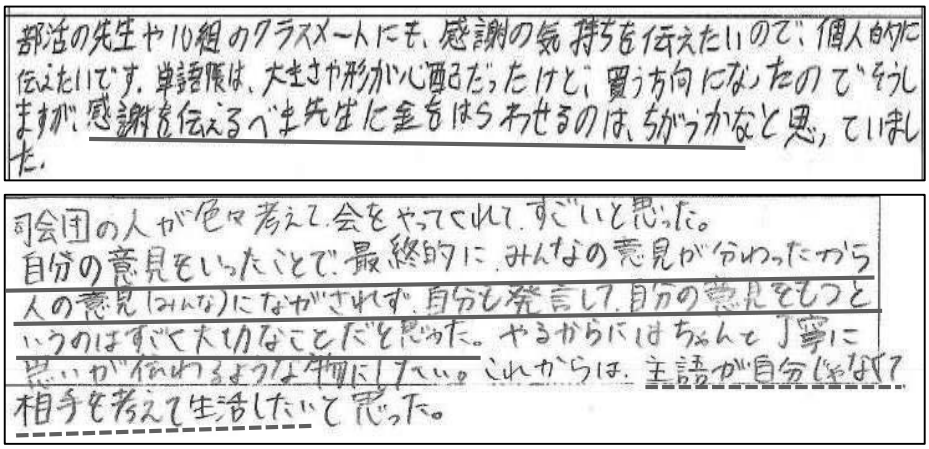
思いを伝える相手側のことを考えためあてであり、Ａの変容がうかがえる。

資料 14：１年のまとめとなる学級会の授業記録

Ｃ１（司会）　：では、多数決をとります。
　　：最後のあいさつで感謝の気持ちを伝えるがいい人？
Ｃ　　：（多数挙手）
Ｃ１（司会）　：手紙とかを渡した方がいいと思う人？
Ｃ２・Ｂ　　：（２人挙手）
Ｃ１（司会）　：あいさつで感謝の気持ちを伝えるで２人もいいですか？
　　→少数派意見の確認
Ｃ２・Ｂ　　：（・・・）
Ｔ　　：２人の意見も聞いて、なるべく全員が納得できることをした方がいいよね？
　　→教員の声かけ
Ｃ３　　：うん、聞きたいから言ってほしいな。
Ｂ　　：時間がないって言ったら何もできない。やるならしっかり感謝の気持ちを伝えた方がいいと思います。
――略――（Ｂの意見に多くの生徒が意見を変えた）
Ｃ１（司会）　：今多くの人が意見を変えているのですが、手紙の方でいいですか？
Ｃ４　　：でもここで変えちゃったら多数決の意味がないと思います。
Ｃ３　　：でもみんなが考え直してこうなったんだからいいんじゃない？あっ、じゃあＢさんみたいにみんなの考えを変えればいいじゃん。それなら文句ないでしょ。
Ｃ４　　：いやそれは無理でしょ…。

その後、各教科担任の教員に感謝の気持ちを伝えるだけでなく、学年の教員にサプライズで合唱をしたり、校長先生感謝の会を開いたりするなど、すすんで活動することができた。

資料 15：A（上）、B（下）の個人シートの感想


部活の先生や10組のクラスメートにも、感謝の気持ちを伝えたいので、個人的に伝えたいです。単語帳は、大きさや形が心配だったけど、買う方向になったのでそうしますが、感謝を伝えるべき先生に金をはらわせるのは、ちがうかなと思っていました。

司会団の人が色々考えて会をやってくれて、すごいと思った。自分の意見をいったことで、最終的に、みんなの意見が分かったから人の意見（みんな）にながされず、自分も発言して、自分の意見をもつというのはすごく大切なことだと思った。やるからにはちゃんと丁寧に思いが伝わるような物にしたい。これからは、主語が自分じゃなくて相手を考えて生活したいと思った。

２人の生徒の変容がうかがえる。Bが勇気を出して自分の考えを述べたことで、大切なことに気付けた。また、点線部分記述から相手意識が高まったこともうかがえる。

３　仮説の検証と課題

（１）仮説の検証

仮説１に対する手だて

① 「個人シート」を事前に記入することで、発言がかなり増えた。ほとんどの学級会で全員発言を達成することができた。また、個人シートをもとに話し合う姿もみられたことから、個人シートが話し合いのツールになっていることもわかる（資料 16）。

資料 16：個人シートをもとに話し合う姿

② 事前に個人シートに下線や朱書きをすることで、発言を苦手としている生徒も発言ができていた。加えて、司会団が学級会の見通しをもてたこともよかった。

③ 生徒が議案を提案することで、より自分事として考えられていることがわかる（資料 11）。さらに、毎日書く「生活の記録」からも自分たちで立てた課題に主体的に向き合えていることがわかる（資料 17）。

仮説２に対する手だて

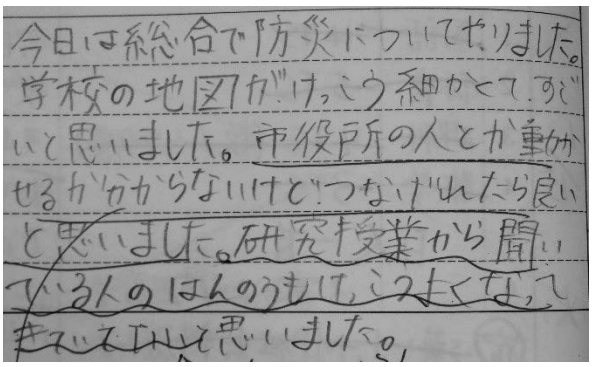
④ 司会団を結成することで、学級会を開くたびに生徒が成長していったことが実践からもわかる。最後の学級会で司会団自ら議題を提案したことからも主体的に学級活動にのぞめている。また、学級会前に司会団が打ち合わせをしている姿からも協働的に課題解決にむかおうとしていることがわかる。

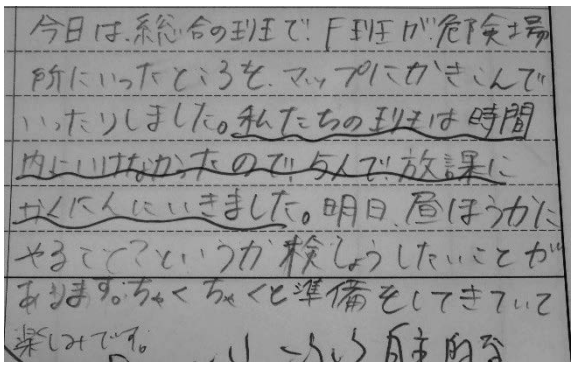
⑤ 学級会のすすめ方をマニュアル化することによって、効率よく話し合いがすすめられた。また、相談タイムや多数決のとり方を明確にすることで、無駄のない話し合いが展開できたり、協働的に解決しようとしたりする姿がみられた。

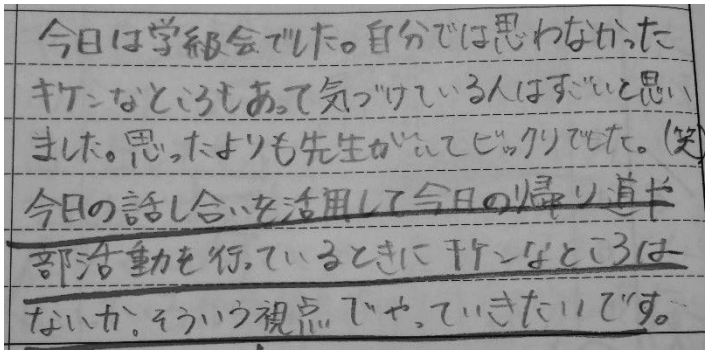
⑥ 生徒からアドバイスを求められたときに、教員が一緒になって考えることはとても大切だとわかった。実践の（２）からも司会団とともに考えたことで、話し合いがひとつの方向ですすんでいった。また、司会団だけではなく、学級全体に声をかけることも意欲付けや自信付けにおいてとても大切である。

本実践の中で、A・Bの姿勢や考え方も大きく変容していった。Aは、学級会を重ねていく

資料 17：生徒の生活の記録


今日は総合で防災についてやりました。学校の地図がけっこう細かくてすごいと思いました。市役所の人とか動かせるか分からないけどつなげれたら良いと思いました。研究授業から聞いている人のはんのうもけっこうよくなってきていていいと思いました。


今日は、総合の班で、F班が危険場所にいったところを、マップにかきこんでいったりしました。私たちの班は時間内にいけなかったので、5人で放課にかくにんにいきました。明日、昼ほうかにやることというか、話しあうしたいことがあります。ちゃくちゃくと準備をしてきていて楽しみです。


今日は学級会でした。自分では思わなかったキケンなところもあって気づいている人はすごいと思いました。思ったよりも先生がいてビックリでした。(笑)
今日の話し合いを活用して今日の帰り道や部活動を行っているときにキケンなところはないか。そういう視点でやっていきたいです。

市役所の方に自分たちの考えを発信しようとしたり、休み時間や授業外の時間に対策を考えたりするなど、学級会を終えたあとにも、主体的に行動する姿が見られた（下線部）。

ごとに、「みんなでいい活動にしたい」「相手のことを考えた内容にしたい」という思いをもつことができた。Ｂは、「自分の考えたことを相手に伝える大切さ」に気付くことができた。また、学級会の場だけに留まらず、学級会後に主体的に行動する姿や決まったことを学級全体でとりくむ姿がみられた。自ら課題を設定し、協働してその解決をする学級会を開いたことから、学級の力がついたと考える。

以上のことから、手だて①から⑥までは有効であったと考える。

（２）課題

課題としては、話し合うべきことにもっと多くの時間を割けたのではないかというところだ。各学級会の自分の意見を言う場面は、発表会のような形になってしまった。タブレット端末が導入された今なら、個人シートを事前に「協働学習支援ツール」などで共有しておけば、議論するべきところに多くの時間を割けると考える。より生徒の学びが深まる授業構成を考えていきたい。

本実践を通して、生徒が主体的かつ協働的に学級活動にとりくむ姿がみられた。今の生徒たちが生きる予測困難な時代にも、自ら立ち上がり、周りの人たちと協力して、確かに歩んでいってほしい。